

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 8 月 2 日現在

機関番号：37701

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26285142

研究課題名（和文）琉球弧型互助形成にみる島嶼防災と地域再生実践モデルの開発評価に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Development and Evaluation of the Practice Models of Disaster Prevention and Community Rebirth in the Ryukyu Arc Islands

研究代表者

田畑 洋一（TABATA, Youichi）

鹿児島国際大学・その他の研究科・教授

研究者番号：20163652

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「琉球弧型互助」慣習を福祉資源の観点から検証し、地域文化に融和する互助慣習を基に地域再生モデルを開発評価し、島嶼集落の地域包括ケアの一助とすることである。本研究により、地域再生には住民間の相互扶助や祭り等の集落文化の重要性が確認され、また、防災互助としての住民相互扶助組織の有用性も再認識できた。他方、地域支え合い活動における民生委員の役割と課題の把握と、経年比較による離島高齢者の生活状況と地域課題を明らかにできた。さらには島嶼地域の不利性を有利性に転換し、地域文化である「絆」を再構築する取り組みや地域文化に裏打ちされた地域づくり・福祉文化的な地域づくりを実現している町村も確認できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to investigate the Ryukyu arc culture from the perspective of social welfare, to evaluate the regional rebirth model on the basis of the mutual support custom harmonizing with the regional culture, and to contribute to the integrated community care system.

It confirmed the importance of the mutual support systems and the local cultures in order to revive communities, and rediscovered the usefulness of the mutual support systems preventing the disaster damage in community. Also, it found out the important role of the commissioned welfare volunteers in the mutual support activities in the local communities, and made clear the changes over the years of the living conditions and local problems of the elderly who live in the island communities. Moreover, it became clear that some towns and villages succeeded in realizing the community development based on welfare culture through grappling with the reconstruction of local community bonds.

研究分野：社会科学

キーワード：島嶼集落 生活互助 地域再生 防災互助

## 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究グループは、これまで琉球弧の北に位置する鹿児島県奄美諸島および南に位置する沖縄八重山諸島の集落における相互扶助をはじめとする地域文化、地域づくり活動に関わる研究を行ってきた。その結果、過疎高齢化の進行に伴う地域機能の低下を余儀なくされている集落の維持・活性化を図るには、島嶼集落に根強く残る相互扶助・支え合いの伝統文化を福祉資源の観点から検証することが急務であるという認識に至った。

(2)「琉球弧型互助」慣習を福祉資源の観点から検証するために、前回の科研調査研究で得られた分析結果を基に、琉球弧島嶼集落における相互扶助に関する調査を計画・実施し、地域再生・実践モデル化に活かすための計画を立てた。また、研究知見の一般化を図るために、前回の科研調査研究で対象地とした奄美諸島と地域文化を共有する琉球弧の島々を研究対象地とすることにした。

## 2. 研究の目的

(1)琉球弧の島嶼集落における相互扶助(互助)をはじめとする祭りや伝統芸能・冠婚葬祭等の地域文化、郷友会組織、自主防災組織等を調査し、それによって「琉球弧型互助」の概念化を行い、島嶼集落における地域づくり活動との関連を明らかにする。

(2)琉球弧型の集落における住民の生活状況、福祉インフラおよび福祉サービスの内容、住民の幸福感・生きがい感・地域アイデンティティ等を調査し、これらが地域福祉文化および地域づくり活動にどのような影響を与えるのかを明らかにする。

(3)「島嶼不利性克服型」ではなく、「島嶼有利性進展型」への変換を志向する中核概念を相互扶助(互助)とし、地域リハビリテーションの構想にもとづき、地域福祉文化と「琉

球弧型互助」を紡いだ島嶼集落の地域再生モデルと実践モデルの開発評価を行い、地域包括ケアを目指す社会連帯ネットワークを構築する。

## 3. 研究の方法

(1)調査対象地の島嶼集落における医療・保健・福祉基盤および地域文化の資料収集を行い、島嶼集落の現状と課題の整理、地域福祉文化の構成要素の抽出および地域づくり活動との関連を検討する。

(2)奄美大島大和村における集落の現状と村全体で取り組んでいる地域支え合い活動への取り組み状況及び課題を分析するために、区長、地域支え合い活動の代表者を対象に聞き取り調査および分析を行う。

(3)地域文化、結い等の伝統的互助が生活の根底にあると考えられている奄美大島(奄美市、瀬戸内町、大和村)の民生委員を対象に、活動の状況と課題を明らかにし、さらに地域支え合い活動への関わりについて検証するためにアンケート調査を行う。

(4)離島不利性の際立つ奄美大島の離島である請島・与路島の住民を対象に2004年及び2012年に実施した生活状況、福祉インフラおよび福祉サービスの内容、住民の幸福感・生きがい感・地域アイデンティティ等を内容とするアンケート調査結果を基に8年間の経年比較による住民意識の変化や地域の変化と課題分析を行う。

## 4. 研究成果

(1)琉球弧型互助文化が地域支え合い活動においてどのような関わりを持つかを明らかにし、生活互助の再生を目指す地域づくりにおいて地域の伝統や文化が福祉資源として果たす役割を検討するため、集落区長を対象にアンケート調査を実施し、奄美大島大和村

の地域づくりへの取り組みを分析した。

地域支え合い活動状況は、集落ごとに豊年祭と敬老会が実施されていたが、存続への危機感から積極的に継承活動に取り組みつつも、組織のまとめ役の担い手不足が深刻であった。日常的な互助慣行としては、全ての集落で隣家同士の声かけや助け合いがなされ、災害に対する互助慣行は、生活互助を基盤とし、消防団・青壮年団による避難誘導や戸締りなどが行われていた。これらのことは平成27年度公開シンポジウムでも確認できた。

支え合い活動の効果として、先発の団体では支え合いの必要性の認識と、現在の活動を無理しないように持続することと活動を集落全体に浸透するよう活動の中味を濃くすることがあげられた。後発の団体では、高齢者の心身の活性化、意欲の向上、担い手の意欲向上などの効果がみられた。

生活互助の再生を目指す地域づくりにおいて、地域の伝統や文化が福祉資源として果たす役割は、地域支え合い活動はマップづくりでの学びと役場の物心両面の支援で始まり、人々の「助け合い(ユイ)の精神と「シマ(集落)」を大事にする心により支えられていた。活動内容は集落ごとに異なるが、支え合いへの認識が共有されつつあった。運営資金の確保と引きこもり傾向の高齢者や集落全員の参加促進が共通の課題となっていた。また、地域支え合い活動により集落文化の景況の一例として八月踊りの唄の継承活動もあった。このように島嶼集落における生活互助の再生への取り組みにおける地域の文化や精神が果たす役割を確認できた。

(2)琉球弧型互助文化では、住民の暮し支える要といえる奄美大島(奄美市・瀬戸内町・大和村)の民生委員の地域支え合い活動への関わりについて検証した。

地域支え合い活動での役割について、対象地域すべてが世話役や責任者など中心的な

役割から協力員まで幅広く役割を担っていた。大和村では、他になり手がおらず、引継ぎが出来ずに困っているという意見もあった。

地域支え合い活動の問題として、対象地域すべてが、活動の担い手確保が大きな課題であった。生活に余裕のある人でなければ難しいという意見もみられた。民生委員の後継者としての担い手問題と同様に、地域を支える担い手確保も課題であった。さらに、活動内容について、家庭内の問題や認知症高齢者とのかわり方への負担感、介入の範囲への戸惑いがみられていた。地域の支え手の中核として地域共同体機能の維持に対する不安感を強く感じている状況があった。

調査対象地域は、従来、地域共同体の持続を前提とした人間同士の関係性と営み、とくに文化、結い等の生活互助を基底としている地域であるものの、民生委員や自治会などを中心とした公共システムによる支え合いが生活互助の要として機能していることが確認できた。これからの島嶼地域の生活互助を維持していくためには、民生委員活動と地域支え合い活動をはじめとする諸団体の活動の整理を行い、それぞれのシステムの機能が十分発揮できるような仕組みの見直しが不可欠であることが示唆された。

(3)奄美大島瀬戸内町の請島と与路島で2004年と2012年に実施した高齢者調査を比較して8年間の生活状況の経年比較を行った。

小離島では健康で自立した人しか生活できない現状があるが、請島では自立度に関して低下傾向がうかがえた。子どもとの交流は2012年の方が頻度が高くなっていった。2012年になると食料品の買い物支援など食糧調達への希望が多くなり、栄養面での心配が強くなっていった。近所づきあいは密接で、社会参加は高い地域であるが、自立度の低下などにより低下しつつあることがうかがえた。医

療サービスと福祉サービスの拠点がなく、ことからくる不満や日常生活に対する不安の程度では、2012年の方が強くなっており、その傾向は与路島で顕著であった。与路島は後期高齢者の方が増えていること、役場のある古仁屋から最も離れたところにあるため生活の不便さが大きいことなどから生活の不安が大きくなっていると考えられた。地域課題が年々深刻になって来ている様子がうかがえた。

まとめとして、少子高齢化が進行してそのマイナス面が改善されないまま残っている。あるいは増幅している様が見受けられた。隣り合う島であるが与路島のほうが交通の不便性が大きいこともあり深刻度が高い傾向がみられた。請島や与路島のような小離島は、介護保険があるのに介護サービスを十分に受けることが難しい状況にあった。

(4) 医療・介護資源の少ない奄美大島島嶼地域において、地域支え合い活動に着手している大和村、着手して間もない瀬戸内町（加計呂麻島・請島）の地域住民等のエンパワメントを引き出すこと、また、介護の地域化による島嶼型地域医療の実践モデル開発を意図し、地域住民等を対象に“介護教室”を実施し、受講前後の介護効力感の変化の把握調査を行った。介護教室の実施は、実施対象地域ごとに実施し、実施前後のアンケート調査については、大和村および瀬戸内町では、介護施設職員と地域住民ごとに調査を実施、請島では、介護施設がないため、地域住民に調査を実施した。本調査については、現在、アンケート調査データの分析中につき、未刊行である。

#### (5) 関連

地元の高校生を対象に独立法人日本学術振興会との共催で、「ひらめき ときめきサイエンス IN AMAMI」を2015年8月9日

に「奄美市 AiAi ひろば」で開催した。テーマは「未来の地域を拓く君たちへー島嶼地域における支え合う文化の『宝』をさがそう」。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

小窪 輝吉、離島高齢者の生活状況、社会参加、福祉意識および地域課題 - 請島・与路島調査における経年比較を通して -、福祉を拓く - 自立性と関係性の形成 -、査読無、第1章、2017、11-28

大山 朝子、島嶼地域における民生委員・児童委員の活動に関する一考察 - アンケート調査をもとに -、福祉を拓く - 自立性と関係性の形成 -、査読無、第3章、2017、51-72

〔学会発表〕(計 1件)

大山 朝子、島嶼集落における支え合い活動への取り組みと課題、日本社会福祉学会全国大会第63回秋季大会、2014年9月20日、久留米大学（福岡県久留米市御井町）

〔図書〕(計 1件)

田畑 洋一 他、南方新社、琉球弧の島嶼集落における保健福祉と地域再生、2017、1-244

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ

奄美新聞社：

<http://amamishimbun.co.jp/index.php?Q>

[Blog-20151121-1&mode](#)

新聞記事掲載

- ・田畑 洋一編著、琉球弧の島嶼集落における保健福祉と地域再生、南方新社、琉球弧の島嶼集落における保健福祉と地域再生

奄美新聞 2017 年 4 月 10 日掲載「福祉文化的な地域づくりに向けて共同研究」

南日本新聞 2017 年 4 月 9 日掲載「支え合う島の社会実態例示」

- ・島嶼地域における防災・減災と福祉文化的な地域づくり、平成 27 年度公開シンポジウム、2015 年 11 月 21 日、奄美市 AiAi ひろば（奄美市名瀬末広町）

奄美新聞 2015 年 11 月 22 日掲載

南海日日新聞 2015 年 11 月 22 日掲載

- ・「ひらめき ときめきサイエンス IN AMAMI」

奄美新聞 2015 年 8 月 10 日「地域の宝を探して - 奄美の高校生が意見交換」

南海日日新聞 2015 年 8 月 10 日「高校生が『結い』を再確認」

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田畑 洋一 (TABATA, Youichi)

鹿児島国際大学・その他の研究科・教授

研究者番号：20163652

### (2) 研究分担者

高山 忠雄 (TAKAYAMA, Tadao)

鹿児島国際大学・その他の研究科・教授

研究者番号：20254568

北川 慶子 (KITAGAWA, Keiko)

聖徳大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：00128977

田中 安平 (TANAKA, Yasuhira)

鹿児島国際大学・福祉社会学部・教授

研究者番号：20341662

小窪 輝吉 (KOKUBO, Teruyoshi)

鹿児島国際大学・福祉社会学部・教授

研究者番号：30144421

大山 朝子 (OHYAMA, Asako)

鹿児島国際大学・福祉社会学部・准教授

研究者番号：60708965

岩崎 房子 (IWASAKI, Fusako)

鹿児島国際大学・福祉社会学部・准教授

研究者番号：60352473

玉木 千賀子 (TAMAKI, Chikako)

沖縄大学・人文学部・准教授

研究者番号：70412856

島村 聡 (SHIMAMURA, Satoshi)

沖縄大学・人文学部・准教授

研究者番号：90713082

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

山下 利恵子 (YAMASHITA Rieko)

元熊本大学・教育学部・講師

研究者番号：90598674